

大聖院：波切不動明王像

勅願堂に安置されている不動明王（仏教における五大明王の 1 人）像は大聖院の本尊です。忠実な信徒を守護し、親のような激しい愛情で信徒を導くと信じられている不動明王は真言密教の中心的な仏であり、通常は怒りに満ちた表情と、右手に剣、左手に縄を携えながら、邪鬼やその他の仏敵に対して今にも怒りを爆発させようとしている姿で表現されます。

この木像はその仏が「波を打ち砕く」姿である波切不動明王を表現しています。船乗りの守護者として崇められる波切不動明王は 9 世紀の伝承を起源とします。この伝承の中で、真言宗を開創した僧侶で、大聖院の開山とも考えられている空海（774-835）が留学先の中国から日本へ戻る途中、嵐に巻き込まれます。周囲を海に囲まれながら、空海は聖なる木片で不動明王の像を彫刻しました。その恐ろしい姿の仏が波を静めたおかげで、空海は無事に帰国することができたと言われています。

波切不動明王は 16 世紀の戦国武将、豊臣秀吉（1537-1598）によって崇拝されました。秀吉は波切不動明王を自らの守護者に選び、1592 年に朝鮮半島への侵攻を命じる前にはその像を自らの船に安置しました。大聖院に現在安置されている仏像は秀吉が朝鮮半島から戻ったのちに奉納したものとされており、波切不動明王が左の拳を握り締め、剣を腰の高さまで引き上げながら直立している様子が表現されています。左右非対称の背景では、全方向に広がって、まるで仏像を包み込んでいるかのような赤い炎が特徴的です。この炎は浄化と、悟りの妨げとなるものを取り除くことを象徴しています。